

生徒の自己評価によるESDの資質・能力の分析

－愛媛県内子町A小の事例－

The Analysis of ESD Competency in self-evaluation by Students

Case-study in Uchiko Town

中口毅博* (Takahiro NAKAGUCHI)

1. 研究の背景と目的

ESDは持続可能な地域づくりの担い手を育成するために不可欠である。ESDの10年を経て、学校においてESD的な学習活動が盛んに行われているが、どのような効果があったのかは定性的にしか把握されておらず、今後定量的な把握が必要である。そこで本研究は、愛媛県内子町A小を事例に、生徒の自己評価に基づきESDの資質・能力について分析することで、学校の学習活動の効果や改善点を把握することを目的とする。

2. 研究の方法

2.1 研究の対象

図1に示すようにESDの資質・能力の向上には、学校の学習環境や地域との協力関係と、個人の資質や家庭環境が影響していると考えられるが、本研究では前者のみを対象とする。ESDの究極の目的は関与した主体が主体的に行動し、持続可能な社会の担い手となることであるが、本研究では生徒・児童の資質・能力向上の部分のみを対象とする。

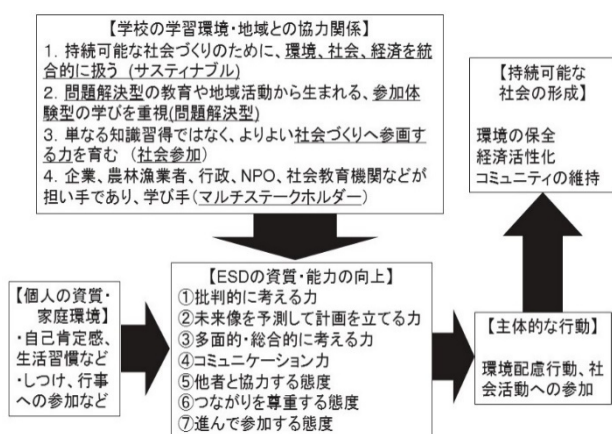


図1 ESDと持続可能な社会の連関モデル

2.2 自己評価アンケートの実施

愛媛県内子町は人口1万8千人弱の農山村であるが、町内のA小学校3年生以上において、2015年4月にESDの資質・能力に関する自己評価アンケートを行っ

た。全学年で地域連携型学習や野外学習を実施したうえで、12月に再度同じ内容でのアンケートを行った。アンケート調査の質問内容と回収数を表1・表2に示す。

表1 アンケート調査項目

項目	質問内容
1 実行力	問1 簡単に解決ができない学習や運動に粘り強く取り組みますか。
2 主体性	問2 総合的な学習の時間のような、教科書を使わず、自分で計画していく学習は好きですか。
3 計画力	問3 自分で活動の計画を立てるのは得意ですか。
4 創造力	問4 総合的な学習の時間で、工夫しながら取り組むのは楽しいですか。
5 多面的思考力	問5 1つのやり方だけでなく、「他にもないかな。」と考えることは得意ですか。
6 批判的思考力	問6 本やテレビで知ったことに対して「本当かな。」と考えることがありますか。
7 問題解決力	問7 「どうしてだろう。」「どうすればよいだろう。」などと工夫して考えていますか。
8 伝達力	問8 自分が考えたことを説明することが好きですか。
9 傾聴力	問9 相手の発表や意見を最後まで聞くことができますか。
10 表現力	問10 調べたことを図やグラフを使って分かりやすく表現することができますか。
11 協調性	問11 いろいろな問題に取り組むとき、協力して活動することができますか。
12 参加能力	問12 話し合いに積極的に参加できますか。
13 資源尊重度	問13 食べ物や身の回りのものを粗末にせず大切にしていますか。
14 活動参加度	問14 お祭りや地域清掃などの地域の行事に参加することができますか。
15 自然体験度	問15 自然保護のため、自分にできることを何か実践していますか。
16 社会関心度	問16 日本や世界で起こっているニュースに関心がありますか。

表2 アンケート調査の回収数

	3年	4年	5年	6年
4月	63	55	70	67
12月	58	55	68	66

集計は、まず4月時点の「とてもそう思う」「そう思う」の比率を学年別項目別に把握したうえで、指標として「変容率」を算出した。これは「どちらでもない」「そう思わない」「全くそう思わない」と答えた生徒・児童が、12月調査において「とてもそう思う」「そう思う」に変容した人数を全体の人数で割った値を算出した。さらに、

12月調査について、ESDの先進校1つである東京都多摩市のT小と「とてもそう思う」の割合を比較した。

3. 学習の内容例

3.1 3年生の役場訪問と仕事調べ

社会科の仕事調べの関連学習として役場訪問と仕事調べを行った。学校近くの内子町役場の分庁へ行き、役場の仕事を理解し役場の各部門が町を支えていることに気づくこと目的とした。8つの班に分かれて8つの部課にそれぞれ表3のような質問をした。3年生はこのほかにも、街歩き、木工所見学と木工体験を行っている。

表3 3年生の役場の仕事調べ質問項目

自己紹介をする。相手の名前をメモする。
1 XXXは、どんな仕事をやっているところですか？
2 ○○さんは、どんな仕事をやっていらっしゃいますか？
3 内子町はエコロジータウンをめざしているとお聞きしていますが、XXXは、かんきょうにかんするどんなもくひょうを立てて、どんなとりくみをしていますか？
4 <班で考えた質問>



写真1 3年生の役場訪問と仕事調べの様子

3.2 4年生の水生物観察

4年生は近くの小田川において専門家の指導の下、水生昆虫を採取し、どのような生き物が生息しているか、また水質と生き物の関係について気づくことを目的とした観察を行った。これ以外にも校外での自然調査を数回行っている。



写真2 4年生の水生物観察の様子

3.3 5年生の宿泊体験

5年生は年間を通して自然環境について学ぶ。1学期は家の周りの身近な自然を調べ、2学期初頭には内子町最奥の森林地域において1泊2日で自然体験学習を行い、本物の自然と身近な自然について比較し、3学期には「ふるさと内子」の自然を守る方法や、多くの人に知ってもらおう方策について考えるというものである。



写真3 5年生の宿泊自然体験の様子

3.4 6年生の歴史学習と平和学習

6年生は1学期に歴史学習を兼ねて内子のガイドブック作りをするため、4つのテーマについて町民の有識者へのヒアリングを行った。2学期には平和学習と学芸会での平和に関する劇を行った。また2学期後半から3学期にかけて世界の国々について食文化を中心とした調べ学習を行っている。



写真4 6年生の歴史学習と平和学習
(左：昔の商店街についてヒアリング、右：新聞記事から平和的なものと非平和的なものを探すワークショップ)

4. 学習の効果

4.1 学習前の状況

4月末に行ったアンケート調査により、学習前の資質・能力について「とてもそう思う」と「そう思う」の回答率を図2～図5に示した。「とてもそう思う」と「そう思う」の合計の全項目平均をとってみると、3～5年生は7割前後であるのに対し、6年生だけは6割前後と低くなっている。どの学年も総じて「伝達力」と「表現力」の評価が低いのが特徴であり、一連の学習活動により、これらの点を向上でできたかどうかのポイントである。

学年別にみると、3年生は「自然体験度」「活動参加度」「協調性」が8割を超え高くなっているが、「伝達力」と「表現力」は5割前後と低くなっている。4年生は「資源尊重度」「活動参加度」は9割に達し、さらに「実行力」「創造力」「協調性」が8割を超えている。その一方で、3年生同様「伝達力」が4割前後と低くっており、「計画力」「多面的思考力」も5割前後と低くなっている。5年生は評価のばらつきが大きく、「批判的思考力」の9割を筆頭に、「協調性」「資源尊重度」「傾聴力」「活動参加度」が8割を超えている一方で、「伝達力」が3割、「計画力」が4割前後と低くなっている。6年生は評価が8割を超えている項目は「傾聴力」のみである。一方で「伝

達力」が2割前後、「表現力」が3割前後と極端に低くな

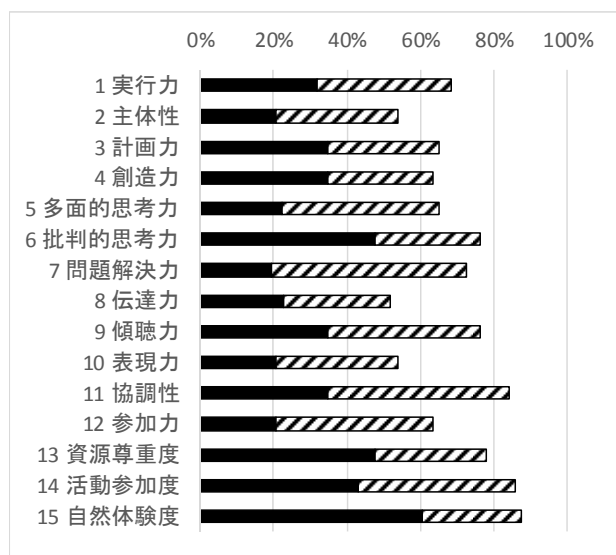


図2 3年生の学習前の資質・能力

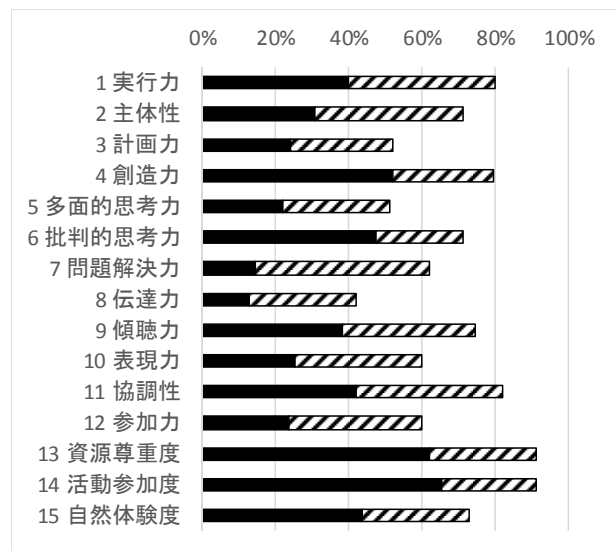


図3 4年生の学習前の資質・能力

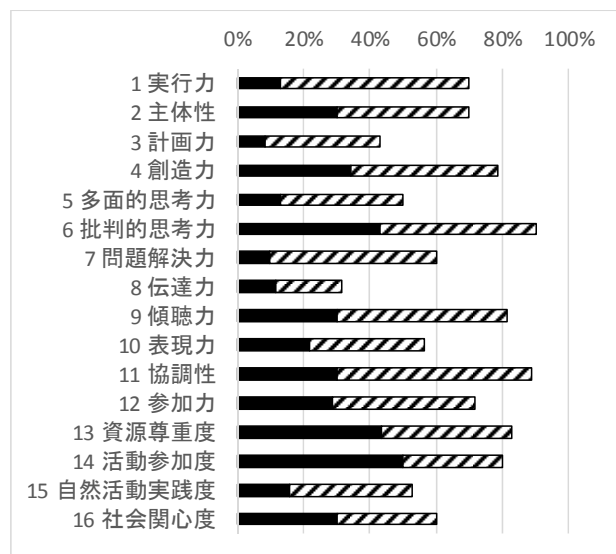


図4 5年生の学習前の資質・能力

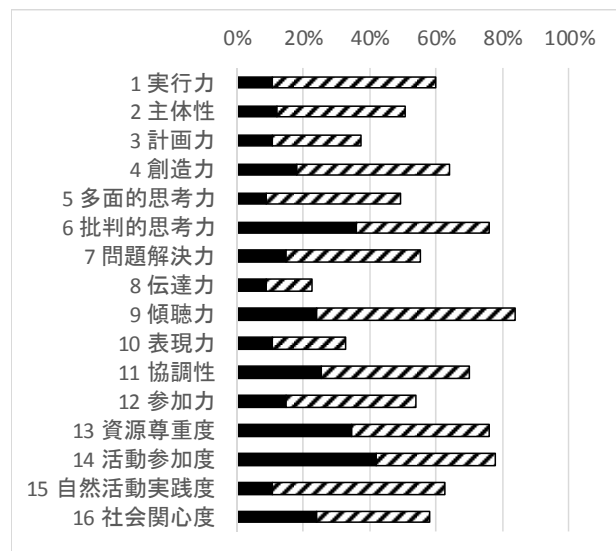


図5 6年生の学習前の資質・能力

4.2 変容率

学年ごとの変容率を図6～図9に示した。全体として「参加能力」で最も資質・能力の向上がみられ、「主体性」も向上がみられる学年が多い。

学年別にみると、3年生については「参加能力」の変容率が42%と最も高く、次いで「主体性」が30%、「創造力」「表現力」がともに26%、「実行力」が25%となった。4年生も「参加能力」の変容率が33%と最も高いが、他には変容率が2割を超える項目はない。5年生も「参加能力」の変容率が39%と最も高く、次いで「計画力」が31%、「社会関心度」が28%、「多面的思考力」が27%となった。6年生は変容率が3割を超えるものが3項目あり、「12 参加能力」が34%、「主体性」「計画力」がともに33%となっている。

このように能力・資質向上がみられた生徒・児童が一定数いる一方で、変化しないあるいは低下した生徒・児童もみられることから、学習方法のさらなる改善が必要である。

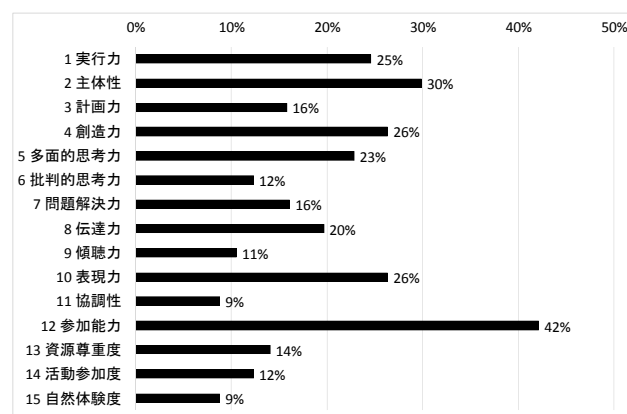


図6 3年生の資質・能力の変容

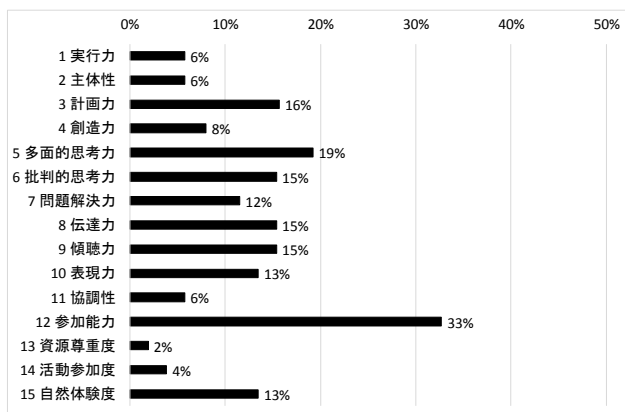


図7 4年生の資質・能力の変容

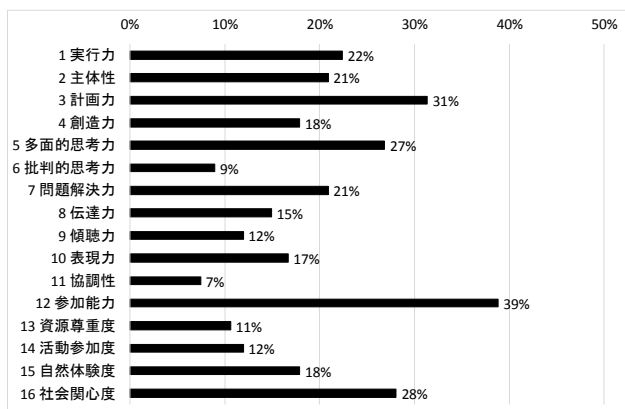


図8 5年生の資質・能力の変容

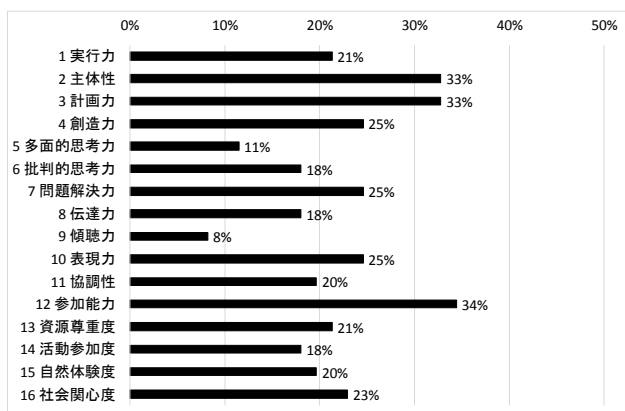


図9 6年生の資質・能力の変容

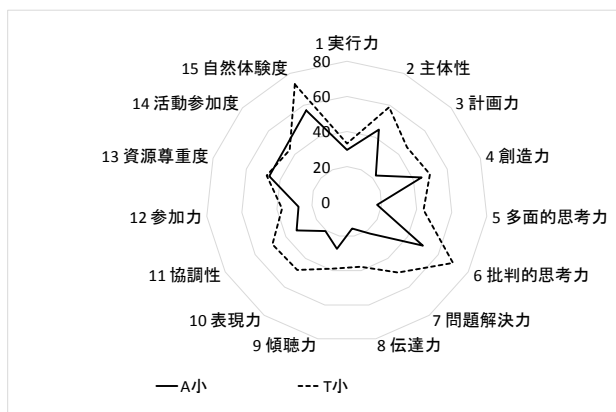


図10 3年生の資質・能力の比較

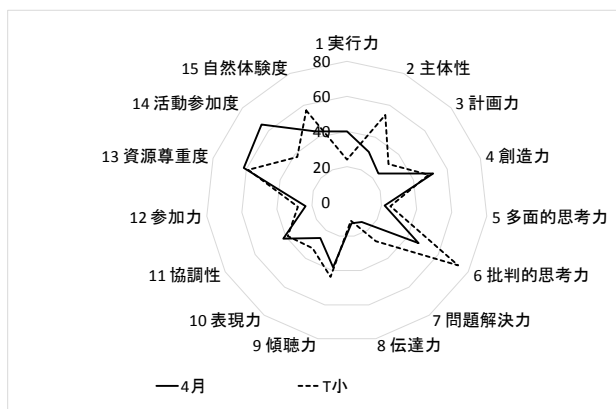


図11 4年生の資質・能力の比較

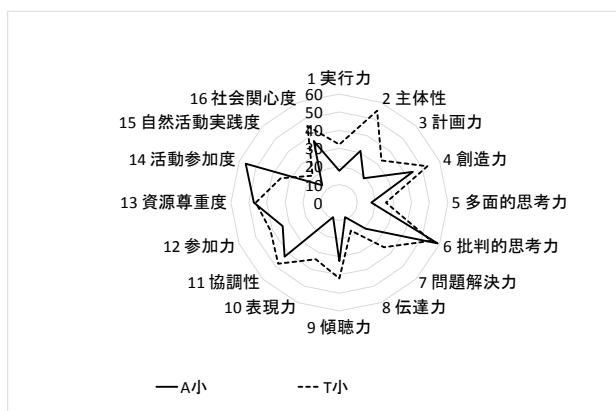


図12 5年生の資質・能力の比較

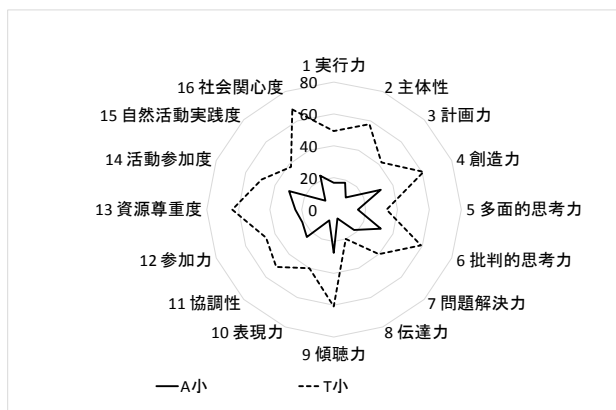


図13 6年生の資質・能力の比較

4.3 T小との比較

12月調査結果で「とてもそう思う」と答えた比率をT小と比較したものが図10～図13である。これを見ると、4年生と5年生はT小と遜色ない水準に達しているものの、3年生、6年生はまた達しておらず、特に6年生は極端に評価が低くなっていることが明らかになった。学習方法のさらなる改善が必要であるといえる。

参考文献

中口毅博・高杉悠那(2016)幼稚園・保育園から小学校低学年に至るまでの環境学習効果—愛媛県内子町におけるヒューマンソーシャルライフサイクル分析(その1)。第11回日本LCA学会研究発表会要旨集。